



真夜中

蕩
ルーにんぐ

成人向

FOR ADULT ONLY

2vs Presents



はあ…

いいじゃない
それくらいは
誰でも話してるわよ

ええっ!?!
で…でも…

きゅ…急に何を
言い出すの!?!

まったく戦場ヶ原め…

ホッホッ
こんな時間に
呼び出すなよ

あなたセックスに
興味はないの?

一体何の用で…

ねえ羽川さん

そんなに難しく
考えなくていいから
ねっ…

う…うーん…

うん…わかった

でも…誰にも
言わないでね

大丈夫よ
心配しないで

まあその
なんというか…

興味ないって
言えば嘘に
なるかな

あら
そうなの？

経験してみたいとは
思うけど
今のところそういう
機会はないなあ…

どうして？
羽川さんなら
言い寄ってくる男なんて
山ほどいるでしょう？

そんな事無いって
かいかぶり過ぎだよ

それこそ間違っているわ
あなたなら
その気になれば
やりまくれるわよ

やりまくれるって…
そんなキャラじゃ
ないよ

まだ良いなって
思える人も
いないし…

やっぱり今は
考えられないよ

そう…
だったらー



カッ!!

ちよっ!

せ…戦場ヶ原さんっ!?



私とシて
みる気はない?



僕の方が
百倍は触りたいぞ…
イキナリ言われても…

以前からあなたの
大きな胸に触れて
みたいと思っていたの



じよ…冗談は
やめてよ

いいえ
私は本気よ



そ…それは
ちよっど…
イキナリ言われても…



どうかしら?
女の子同士っていうのも
悪くないと思わない?



で……でも……

しゅん

阿良々木君に
バレたら
どうするの？



あら？
そんなの心配する
必要は無いわよ

え……？
どうして？



し……だ……だけ……ど……私……
どうすればいいか
わからないし……
女の子同士なんて……

ちゃんと私が
リードするわ

羽川さんは
何もしなくて
いいのよ



せいぜい涙を流して
悔しがるのが
関の山だわ

あの男が私と
羽川さんの
行為を知ったから
なんだと言うの？

戦場ヶ原さんて
本当に阿良々木君を
好きなのか疑問に
思う時があるの……
わりと頻繁に……

いいでしょう
羽川さん
お互いに女なんだから

きつと男の子と
するより気持ち良
なれるわよ
ね?

いや...冷静に
考えてそれは
どうかと...

そう...じゃあ
仕方ないわね
残念にたわ...

あ...そうだわ
羽川さん

ちよつと
背筋を伸ばして
もらえるかしら

え...
こ...こう?



え...?

あ...んっ...
戦場ヶ原さん...
な...なんで...!!



いいから
力を抜いて
リラックステして

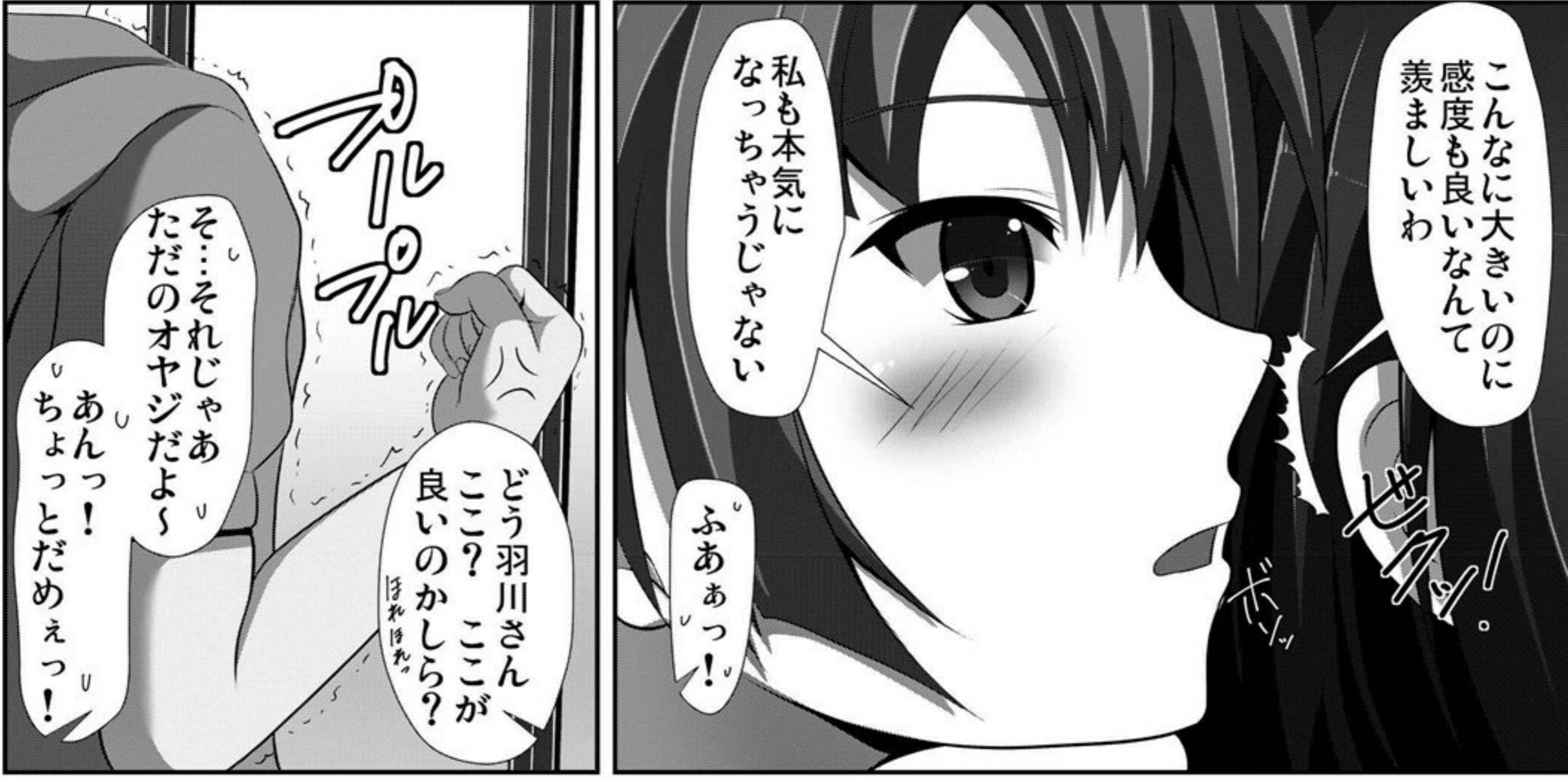


や...ちよっと...
やめて...

凄いわね
手に収まり
切らないわ

世の男たちは
これをほったらかし
にしていたのね
勿体ない...

だ...ダメ
だってば...



こんなに大きいのに
感度も良いなんて
羨ましいわ

私も本気に
なっちゃうじゃない

ふああっ!

どう羽川さん
ここ? ここが
良いのかしら?
ほれほれ

そ...それじゃあ
ただのオヤジだよ

あんっ!
ちよっとだめえっ!



そこまでだっ!

止めろ
戦場ヶ原っ!!





なるほど
察するに阿良々木君は
私たちの会話を
ドア越しに聞いていた

更には羽川さんの
悩ましい声に
興奮していたと…

つまりは
こういう事かしら

ああっ!!
そんなにはっきり
言わないでくれっ!
変態みたいじゃありませんか!!

いや…間違いなく
変態だよ
逮捕されるレベルだよ



まあこうなった
からには
仕方ないわね
フッ

三人でするわよ
阿良々木君

その指は止める
オヤンデ!!



嫌がってるように
見えるけど
羽川さんだって
まんざらでもないのよ
ちゃんと感じてたもの

阿良々木君も
羽川さんとシたいと
思わないわけ?

そ…そりゃあ
そんな事もない
わけじゃあ…し
下ネタ



どうして？
羽川さんが
嫌いななの？

ええっ!?
そうだったの？

違うっ!
話を最後まで
聞いてくれ



ブーッッッッ

僕には羽川と
するなんて
考えられない

いや…
やっぱり駄目だ



僕にとって羽川は
そういう対象じゃ
ないんだよ

そりゃあ女性として
意識してない
わけじゃないけど…

どちらかという
人間として
尊敬しているんだ
色々思ってるし

だからもうこの話は
これで終わりにしてくれ
頼むから



ん…なんだ?
なにを言ってるのよ

ああそうそう
ところどころよ

良かった…
ホッ



そう…わかったわ
そこまで意志が
固いなら仕方ないわね

あなた私たちの会話を盗み聞きしてただで済むと思ってるのかしら？

その落とし前はキツチリつけてもらおうわよ

ガクガク

す…すいませんでした…

すまんて済んだら警察はいらないの

丁度いいわあなたの性根も叩き直してあげるからさっさと裸になりなさい

ちよっと待てっ！その話は終わったハズじゃ…っ

ええ…だから終わって始まったのよ

わかるて

んな無茶苦茶なっ！

うるさいわね固いのは股間だけで充分なのよ

いや…やめてえっ!!

やいっ!!

何を恥ずかしがってるんだかあなたそれでも男なの？

お前はそれでも女なのかっ!!?

少しは恥じもえ!!

黙りなさい

ぐはあっ!!

ふう…ようやく大人しくなったわ羽川さんちよつと手伝って

×メン剃りしませう



そ…それで
どうするの

これを勃たせないと
始まらないわ

どうするも
なにも

あ…あの…
戦場ヶ原さん

ど…ど…ど…やって？



いい機会だし
羽川さん
やってみる？

ええっ!?



そうね…
お口でしてあげるのが
てっとり早いかしら

ッああ
そうだわ



い…いきなり
そんなの
無理だよ…

大丈夫よ
慣れてしまえば
何てことないわ

そ…それはそうかも
知れないけど…

ほ…本当に
してもいいのかな…?

阿良々木君は
迷惑じゃないかな…?

けど…今更やめる
わけにもいかないし…

それに…相手が
阿良々木君なら—

うん…

や…やってみる…

こ…これを口に含んで
優しく舐めてあげるだけ…

ただそれだけの
ことなんだから…

じゃ…じゃあ
するね…

うわ…
ふにふにしてる…



あ…嘘…
なにこれ…

どんだん
大きくなってる…



びくびく
脈打って…

凄く熱い…



流石羽川さんね
初めてなのに
上手だわ

けれどどうした
ものかしら

これじゃ
私の出る幕が
ないわね



あびるっ♡

んあッ♡



凄い匂い…

か…絡み
ついてくる…

こ…これが
精液…？



ちゃんと全部
飲み込むのよ

ダメ…とても
受け止められない

ま…まだ
射精してくる…っ!?

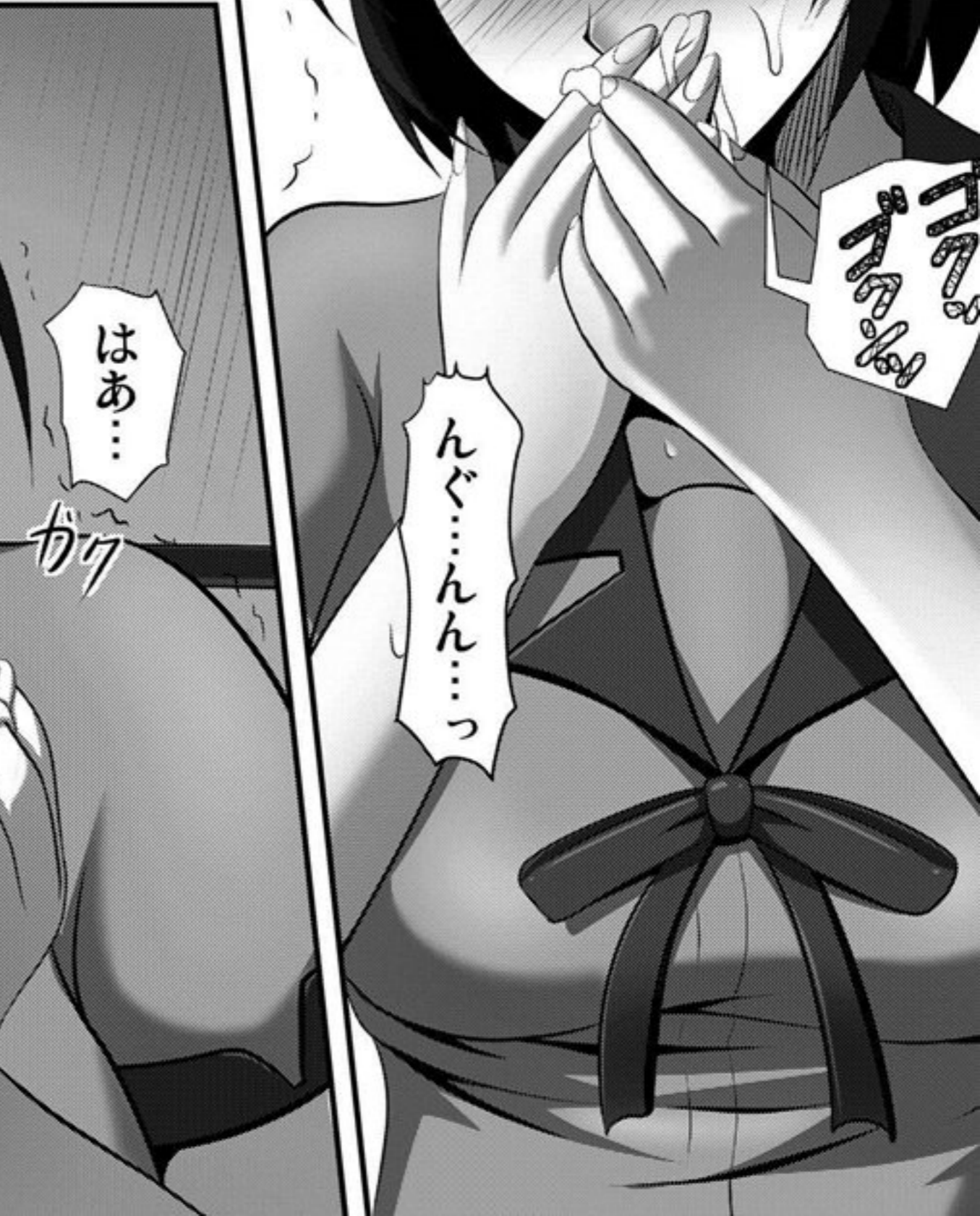
我慢して
羽川さん

しす…

私はいつも
そうしてるわ



は…羽川が
僕のを…





良く頑張ったわね

偉いわ羽川さん

!?



やっ…ちよつと
戦場ヶ原さん!?

しゅる

しゅる

大丈夫だから
大人しくして

いーや

直ぐに気持ち良く
してあげるわ

いーや

ひん…っ
そんなんっ!

あっ…
やあ…っ!

もうこんな
濡れているわよ

阿良々木君の
精液飲んで
感じちゃった?

違う…
戦場ヶ原さん
やめて…っ

ふふ…嘘は
良くないわよ

溢れて
止まらない
じゃない

まるで洪水
みたいだわ

ほら見て
阿良々木君

羽川さんのここ
とっても可愛いのよ

阿良々木君のが
欲しくて堪らない
みたいだわ

早く挿入して
あげなさい

ああ……っ

はあ

やあ……
見ないで……っ

あ……ああ……

ひ……あ……
阿良々木君……っ

ま……待って……
まだ心の準備が

心配しないで
羽川さん

い……挿入れるぞ
羽川……

あ……嘘……っ!?

ひ……んう……っ

痛いのは
最初だけよ

直ぐに
快感に変わるわ

そ……そんな……

あ…くふうっ

は…挿入って
くる…

私の膣内に…

あ…阿良々木君が…

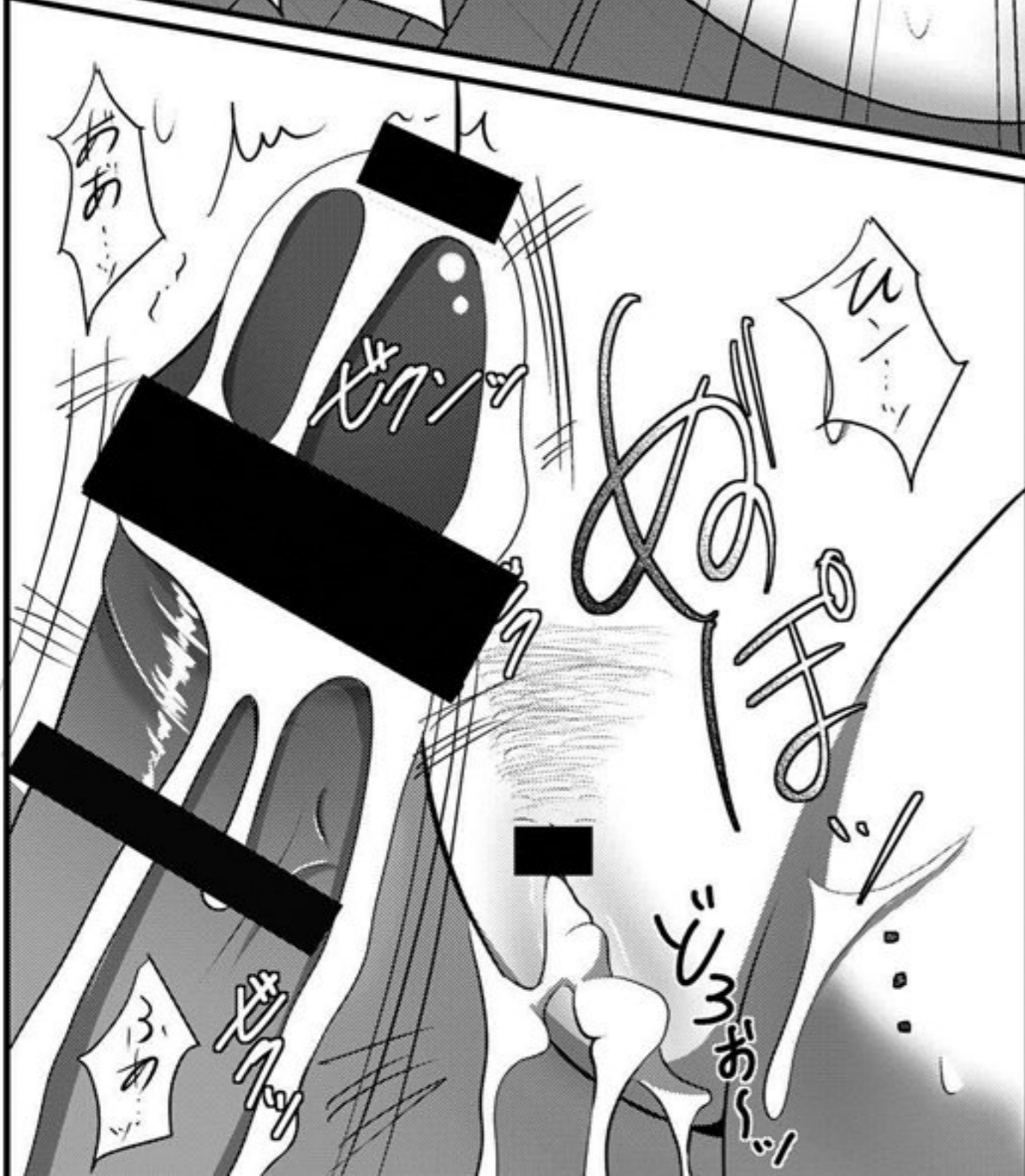


ほら…よく見て
羽川さん

阿良々木君と
繋がっているのよ

やあ…は…
恥ずかしいよお…





あら…
羽川さん？

あ…はあ…♡

どうやら私の声が
聞こえてないようね

膣内に射精されて
イっっちゃった
みたいだわ

ハッ…あ…♡

それにしても
いっぱい
射精したわね

私よりも
良かったのかしら？

本当かしら…？

♡
おいおい…
そんな事はないし…♡

ふふ…
まあいいわ



それじゃあ
今度は私の番よ

羽川さんより
気持ち良くしてね

待ってくれ
そんな直ぐには…

早くこれを
私の膣内に挿入して

ちよ…
ちよっと…っ

激しく
掻き回して
ちよっうだいで

あ…く…っ

そんなのダメよ

もう我慢
できないの

う…っ

んふっ♪
阿良々木君と
羽川さんの匂いで
いっぱいだわ

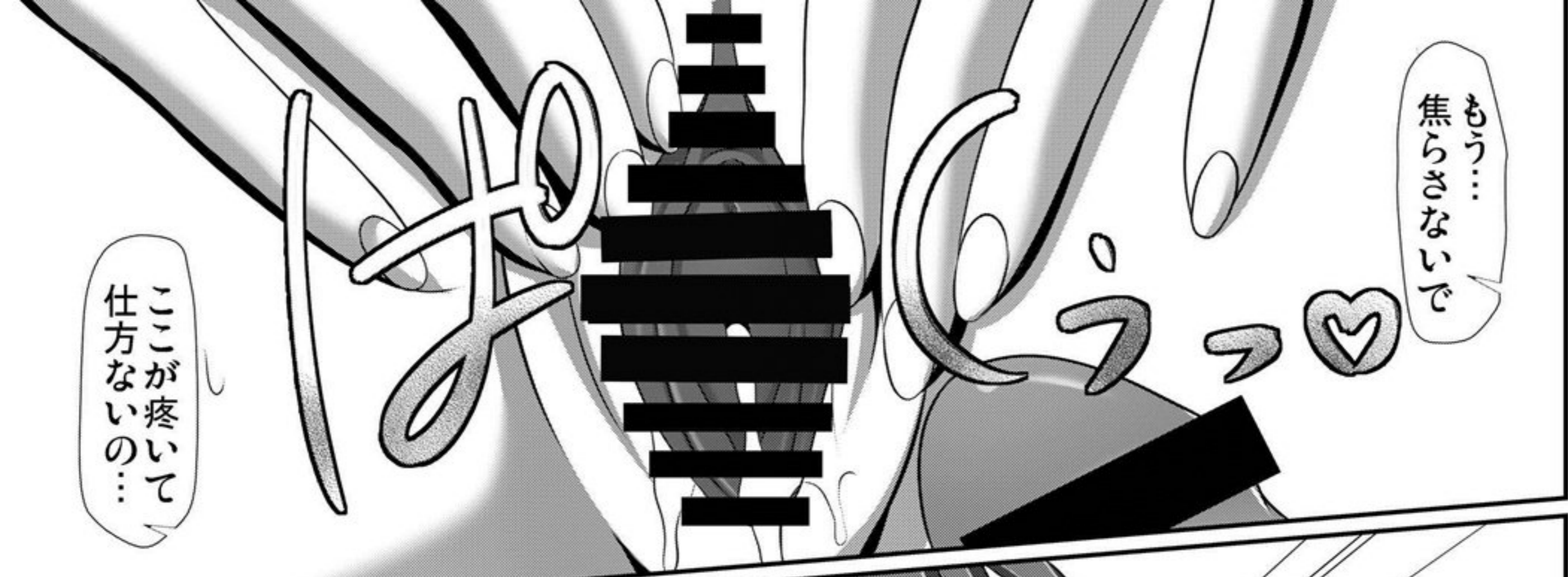
とっても
いやらしい
匂いよ♪

ほら…またシたく
なったでしょう？

多少乱暴でも
構わないわよ

もう…
焦らさないで

ここが疼いて
仕方ないの…



んふあっ!

ああっ!
いいわっ!!

奥まで
きている…っ



ああ…固いっ!

はあっ…
阿良々木君…っ

もっと…
もっと突いてえっ!



じゃあ次は
羽川さんの番ー
いあらマ

と言いたい所だけど
まだイッたままだわ
どうしましよう?

羽川も
疲れたんだろう

このまま
寝かせてあげよう

僕も疲れたし…

いや…もうし
勘弁してくれ

そろそろ帰るよ

ダメよ!

二・三日は
帰れないと
思いなさい

あ…!!?
お…お前まさか…

初めから
そのつもりで…?

私が満足するまで
終わらせないわ

え…!!?

あ…もう…っ

んんっ!!



今更そんな事は
どうでもいいのよ

大事なものは
私たちを
気持ち良く
させること

戦場ヶ原…っ

な…なんで
こんな…っ!?

ただそれだけよ
単純でしょ?



いいわね
阿良々木君…
逃げたならあまよ♡

あなたもいっぱい
気持ち良くしてあげる

死んだほうが
マシって思うくらい

うあ!

イかせ続けて
あげるわ♡



ふあ…っ!

あ…んっ!

奥まで
当たって…っ♡

はあ♡



あーあーあー♡

あーあーあー♡

あーあーあー♡

あーあーあー♡

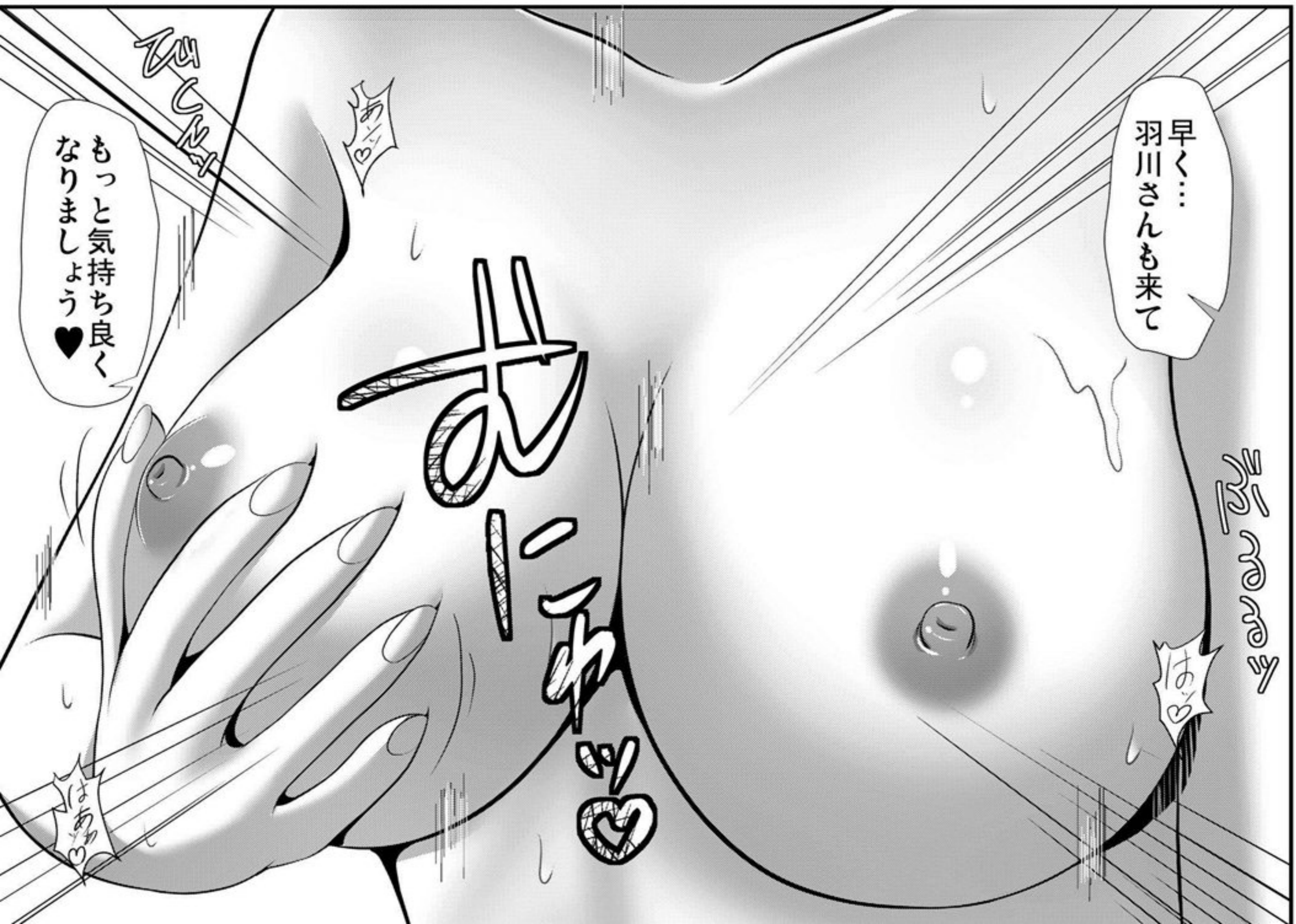
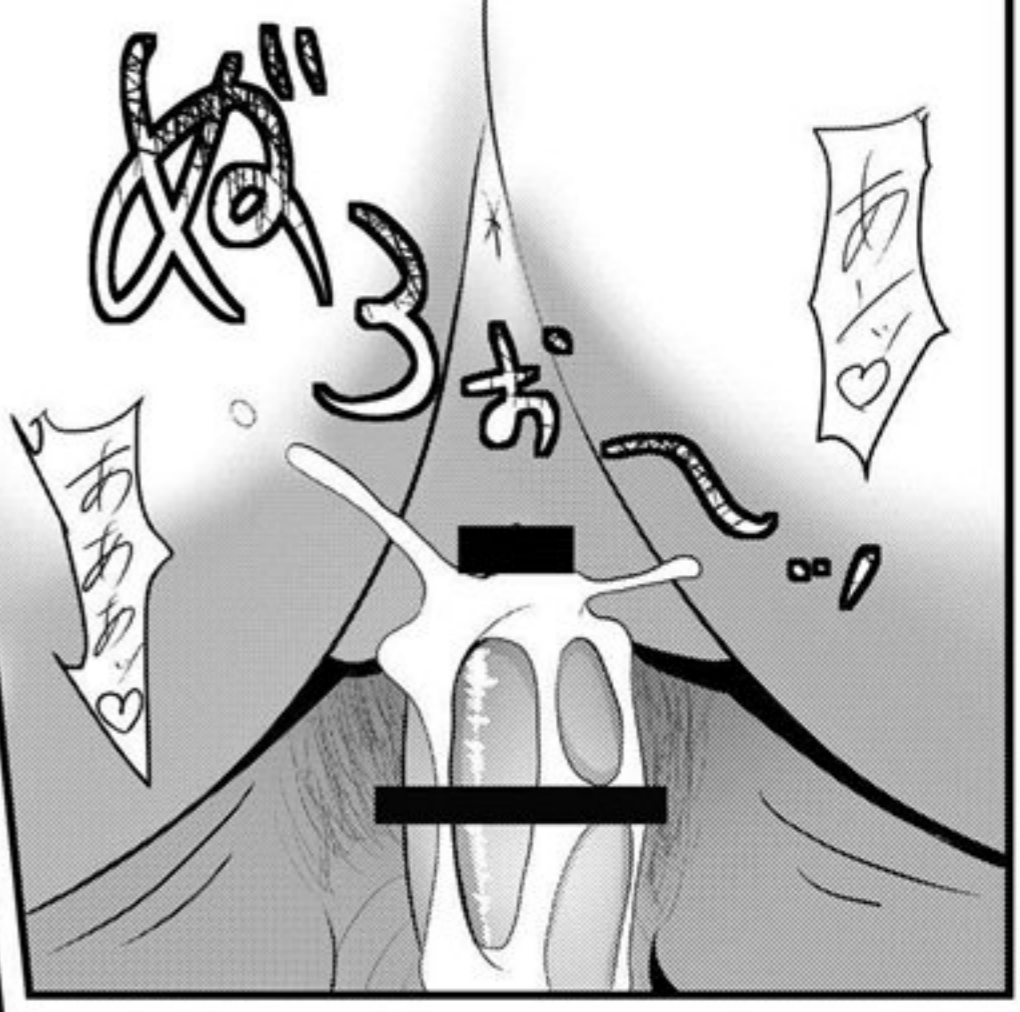
あーあーあー♡



は…んっ
阿良々木君…っ

まだイっちや
ダメよ…っ

三人で
一緒にいくの



早く…
羽川さんも来て

もっと気持ち良く
なりませう♡

あーっ♡

ほら…
阿良々木君に
おねだりするのよ

は…あ…っ
う…うん…

お…お願い
阿良々木君…

私のこ…
な…舐めて…っ

ちよ…
ちよ…
待…
待…
待…

お…落ち
着いて…っ

い…っ!?

は…羽川…!?

ごめんね…
阿良々木君

切なくて
おかしく
なりそうなの…

あ…ひんっ

あ…ああ…!!

だから…
お願い…

あ…ひ…っ

はあ…あっ

す…凄く
感じるの…

あ…阿良々木君…
もっ…と…っ
気持ちいい♡

んあ…あっ!!

あ…あ…♡

ひぐっ!?

あ…あ…♡

あ…♡







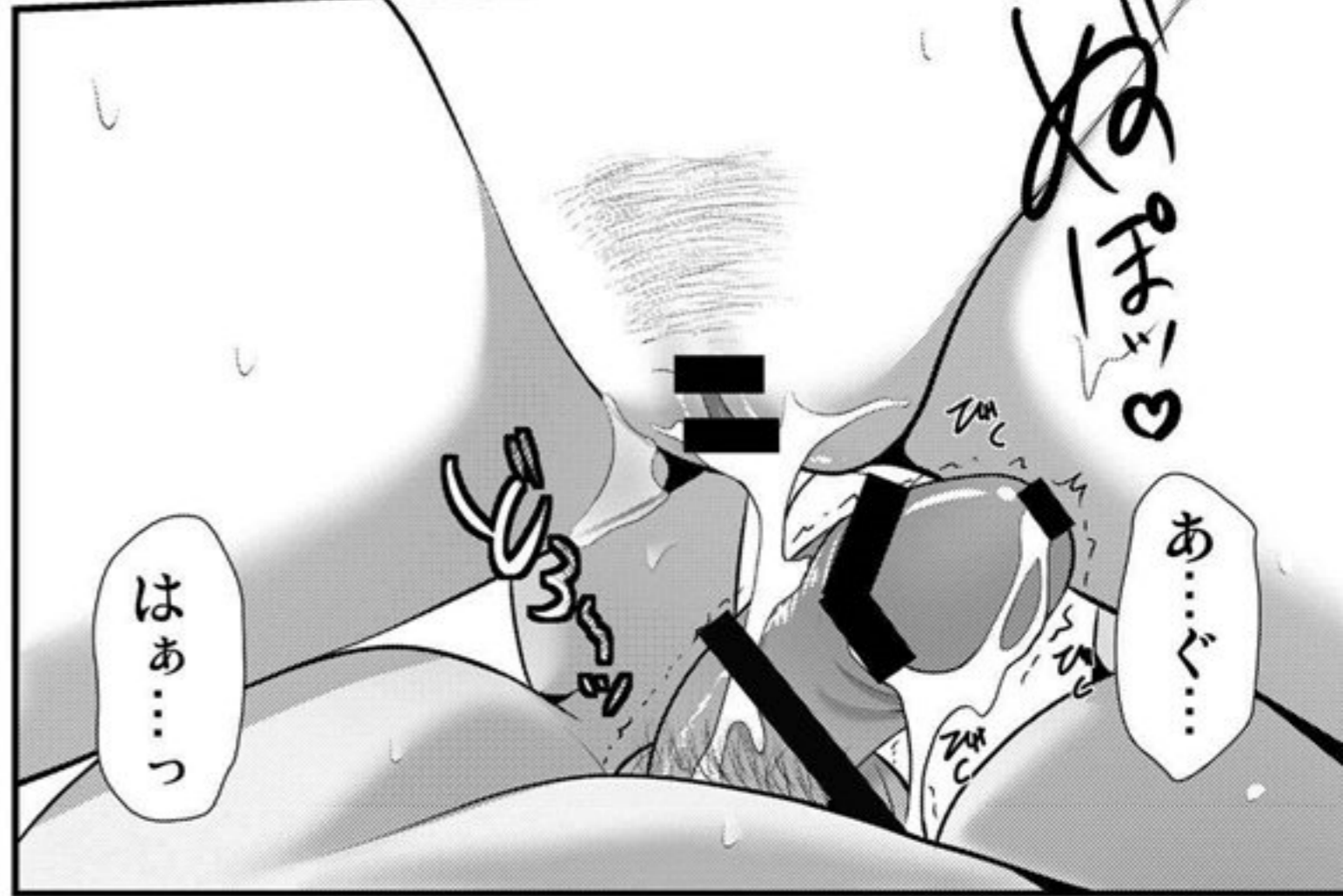
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

は

は





ぐはあっ!!

りにいっ!!

今日は
これで終わ...



仕方ないの...
助けてやるか

も...もう無理だ...



古来より伝わる
絶倫のツボを
突いただけじゃ
おまは既に
執ておる!

心逝くまで
愉しむが良い
逝くまで♡

案ずるな
お前様よ

お前一体なにを...

し...忍...っ!



あ...あ...っ

ち...違...っ
やめて...

カカツ

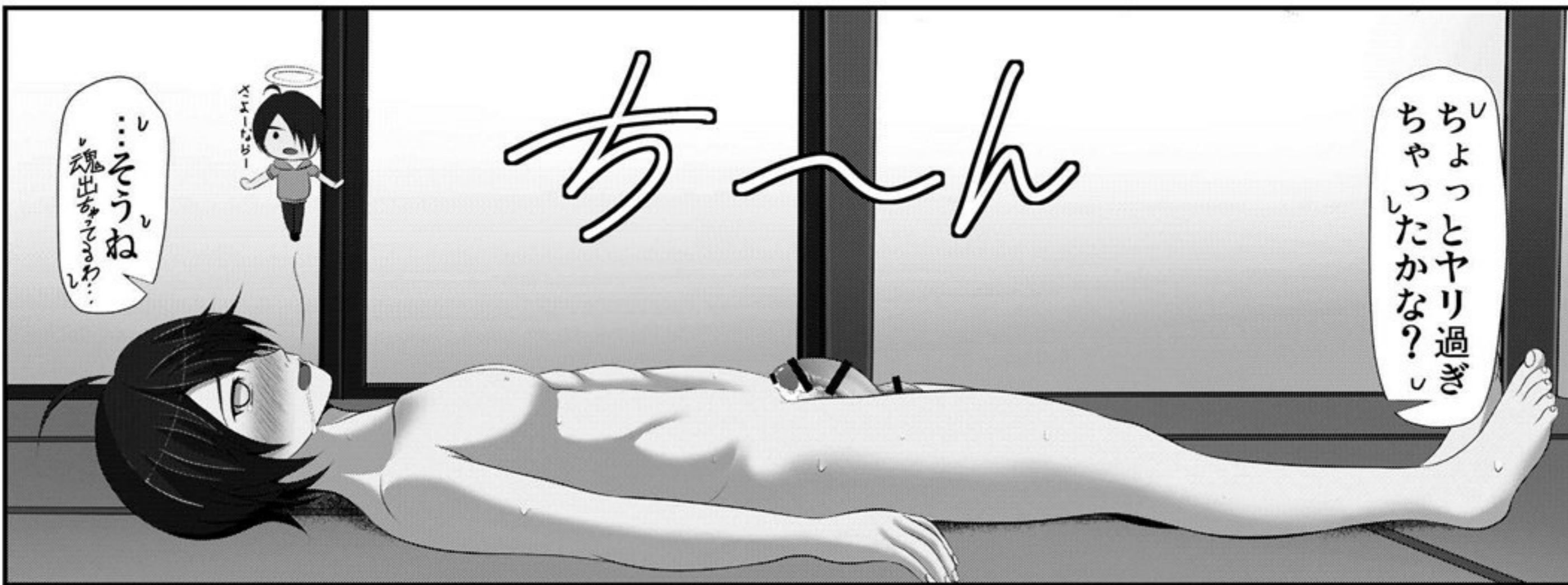


さっきより
全然元気じゃない
おんやまの気なつたのわ

えっ!!
いや...これは...っ!



わあ...凄い
阿良々木君
急にシラレたの?



■ 奥付 ■

■ 誌名 ■

真夜中蕩れ一にんぐ

■ 発行日 ■

2012年12/31

■ 発行者 ■

2vs/椎名鯛

■ 連絡 ■

fwjh2008@mb.infoweb.ne.jp

■ 印刷 ■

 **SUN GROUP**
http://www.sungroup.co.jp/

■ pixiv ■

http://www.pixiv.net/
member.php?id=1637339

■ Circle.ms ■

http://c10014914.circle.
ms/cr/CircleProfile.aspx

□真夜中蕩れーにんぐ□

2vs 椎名鯛